

## はじめに

多くの英語学習者は、**覚えている英単語の数が2000～3000語になると、大きな壁にぶつかります**。その後の暗記がなかなかはかどらない、覚えても覚えても英単語を端から忘れていく——そんな状態が続きます。

**英単語の数を、英語圏で普通に暮らしてコミュニケーションするのに困らない1万語レベルに“一気に”増やしたい**——そんな方には、この本でお伝えする「語源」（英単語の元となるもの）の知識が非常に役立つでしょう。「意味を理解できる、推測できる英単語数」を急激に増やす特效薬こそ、語源だと言っても良いのです。

英単語は長い歴史を経て、人間の思考法にそって無理なく自然に増えて来たものです。漢字も同様です。ですので、漢字の「へん、つくり、かんむり」の知識を得ると、たくさんの漢字を関連付けて覚えたり、漢字の意味を推測したりするのが容易になります。漢字の学習において「へん、つくり、かんむり」の知識が必須であることと、**英単語の学習に「語源」の知識が必須であること**とは、共通しています。どちらも多くの語彙を関連付けて記憶するのに大きな効果があるのです。

“韓国で歴史的な大ヒットとなっている『ココヨン』という英単語学習書——語源を使って、楽しく英単語力を爆発させられる本——があるので、評価してほしい”と編集者から持ちかけられたことが本書『語源耳』制作の出発点です。

日本では「語源」の本は少数の人にしか受け入れられないというジンクスが、従来の日本の出版界には存在してきました。ところが、韓国では『ココヨン』という名前の語源本が1993年に大ブレイクしていたと

いうのです。そして同書はバージョンアップをくり返しながらかも売れ続けており、その部数は 150 万部を超えていると言います。私は大いに驚きました。

『ココヨン』の韓国語版をはじめて読んだ、私、松澤喜好の第一印象は以下の通りです。

- ①語源の選択と単語の選択が、実によく考えられている。
- ②写真やイラストが豊富で、語源学習に重要なイメージを得やすい。
- ③解説がユーモラスで、実に楽しい。

——つまり、これは日本人にとっても、とても良い本だと悟ったのです。そこで、日本の読者向けに以下の3点をパワーアップさせることを条件に、編集者に「日本でも出版すべし！」との感想を返しました。

- ①音声 CD を付録にし、正しい発音と共に単語を学べるようにすること。
- ②日本人向けに、イラスト点数をさらに増やすこと。
- ③説明はできるだけ簡潔にして、単語の絵本のような本にすること。

——以上のコンセプトをもとにして出来上がったのが、本書『語源耳』です。『ココヨン』を翻訳し、そこに、語源研究歴 40 年超の私が大幅に加筆をしたことで、決定版の語源本になった、と自負しています。

『語源耳』は（赤）と（緑）の全 2 巻構成で、どちらの巻から始めても良い内容になっています。計 2000 語近い英単語を見出し語とし、付録 CD によって正しい発音とともに学べます。さらに、それら約 2000 語に関連した英単語や印象的な英文を、付録の「赤いセロファンのチェックシート」を活用しながら覚えていくことで、英単語力を 3000 語以上（しかも、そのほとんどは中上級レベルのもの）まで爆発的に伸ばせる語源本になっています。これら 2 巻分の語源を知ることで、意味が推測できる英単語の数は 1 万語レベルにまで拡大するでしょう。

もともと本書の原書である『ココヨン』は、著者のホリム・ハン氏が語源オタクであることから、高いクオリティを持っていました。ですので、比較的容易に、同じく語源オタクである私、松澤が手を加えやすかったのは幸いでした。英語の語源の知識を使って英単語力をつけるということにおいて、日本人と韓国人とが共通のイメージを持っていることを強く感じました。そして以下のことをますます確信しました。

「**重要なのは、単語の持っているイメージをそのまま身につけること。イメージがわかっているならば、英会話で使える。習得すべきは「イメージ」であり、単なる「日本語訳」では無い。そしてそのイメージの習得を可能にするものこそ、語源学習である**」

本書は、語源学習に"イラスト&ユーモア"を加えたことで韓国で150万部以上を売るスーパーベストセラーになった『ココヨン』に、日本の大ベストセラー『英語耳』『単語耳』シリーズの著者である松澤喜好が手を加え、さらに日本人向けの発音練習CDを付属させて、さらにイラスト部分を強化した英単語学習書です（韓国語版『ココヨン』にはCDはありません）。

本書の使い方はP.11～をご参照ください。

松澤喜好



## 原書『ココヨン』の序文

「ああ、米もないのに、ご飯を炊く方法を覚えてどうするつもりなんだい？」

いくら白米、餅米の上手な炊き方を覚えて、餅を蒸す技術に酒の造り方まで覚えても、いったいどうするのでしょうか、米がないのに。でも米さえあれば、取り急ぎ、お粥にしたりご飯を炊いたりして食べることができますね。

もうひとつ例を挙げましょうか？ まともな建築資材がないのに、設計図の描き方だけ学んで座っていても、何ができるというのでしょうか？

その「米と建築資材」こそが、英語学習の「ボキャブラリー（語彙）力」にあたるのです。私たちを悩ませる読解、作文、会話、TOEIC、TOEFL……どれも十分なボキャブラリーがなければ、はじまりません。では、逆にボキャブラリーが豊富だったら？ 上達へのあらゆる道が開かれるだけでなく、自信が生まれます。

母国語ではない以上、自分の意志で（むりやり？）身につけなければならぬ英語。覚えるべき英単語の数は、ちょっと暗記して済むような量ではありません。

でも、どの英単語がどんな意味から生まれて、どんなふう to それぞれの形に派生していったのかを知れば——つまり、語源と親しくなれば——そこから、単語をひとつずつ釣りあげるのではなく、英単語をごっそりつかまえる網を編むことになり、さらには魚群探知機まで備えることになるのです。

自分で編んだ網の大きさと探知機のアップグレードの度合いによって、元気に飛び跳ねる、さまざまな英単語という魚がかかってくるのです。

**"All right! My boat is full of fish (vocabulary)!"**

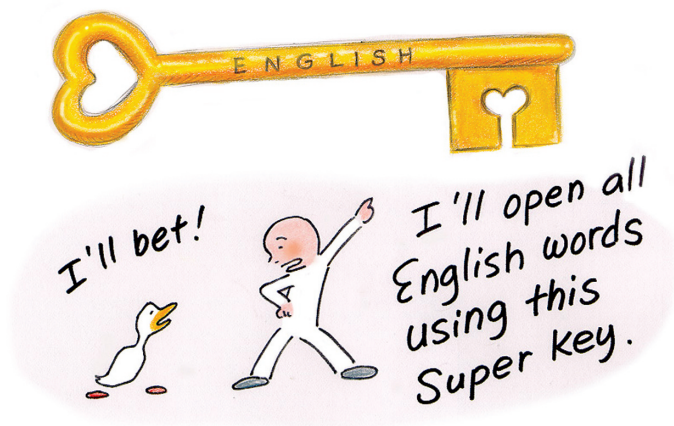
(よし！ 我が舟は（英単語が）大漁だ！)

英語学習は、「格好つけて」あるいは「大騒ぎして」やるものではありません。静かに、まずは語彙力から固めていくことが大切です。かといって、語彙だけ勉強すればいいのでしょうか？ いいえ、それは偏食です！ 英語圏の文化も一緒に勉強していきましょう。そこで本書では、デザイナーである筆者のイラストと、本人が撮影した現地の写真で、英語の語彙と英語圏の文化に親しめるよう工夫しました。

一生懸命に、しかし楽しみながら完成させた本です。僕と一緒に頑張って楽しんでいるうちに、語彙と英語圏の文化が自然に理解できるようになっています。ご心配なく。

ホリム・ハン

カナダ・トロント北の郊外 リッチモンドヒルにて

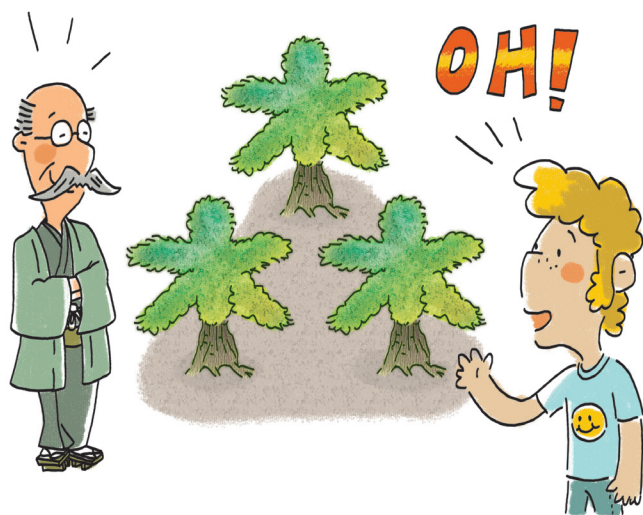


## この本の使い方

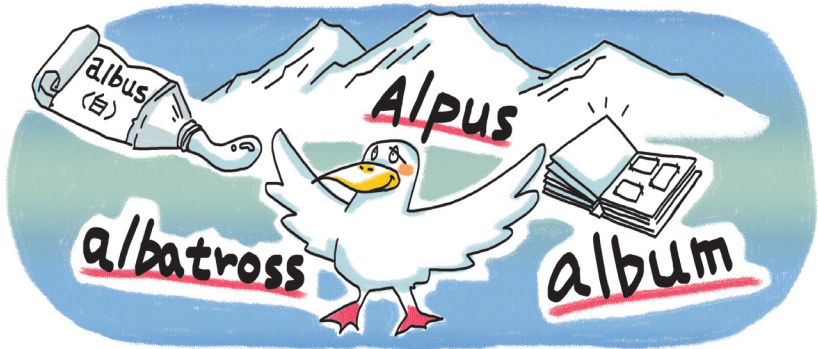
「語源」で、効率的に英単語のイメージを記憶していこう！

漢字は、「へん（偏）、つくり（旁）、かんむり（冠）」等の意味を知っていると、その漢字が何を意味するのかだいたい推測できます。

たとえば、「木<sup>へん</sup>偏」は、木に関する漢字に含まれています。外国人に漢字を説明するときに「木、林、森」の説明をすると「すばらしい！」と感激してくれます。「木」の形を書いて、「木は、a tree です」と教えます。では「木が2つでは？」「林、woods です」「では、木が3つ、つまり木がたくさんあるところは？」「森、forest です」。漢字を書きながら説明すると、「オー、すばらしい！」と反応してくれます。さらに、「草<sup>かんむり</sup>冠」が草類を意味することや、「三<sup>さんずい</sup>水」が水に関することを教えて、いくつか代表的な漢字を教えてあげると、興味をもって覚えてくれるでしょう。



英単語の中に隠れている「語源」にも、実は同じように、その単語を理解するための大切な意味イメージが隠されています。漢字の「木偏」などに相当する働きを持っている部分があるのです。たとえば、私がよく使う例は、「次の4つの単語に共通する語源は何？」という質問です。**Alps** (アルプス山脈)、**album** (アルバム)、**albatross** (アホウドリ)、**albus** (白子) ——。答えはラテン語の「**albus** (白)」です。アルプスは雪でおおわれた白、アルバムは使われる前の白いページ、アルバトロスは白い大きな鳥、白子は突然変異で肌の色が白くなった生物、というイメージですね。すべてに、「白<sup>へん</sup>」とか「白<sup>かんむり</sup>冠」と言っていよいよな「語源」が隠れているわけです。



### 本書での学習の進め方

本書では、みなさんに「語源」の知識を楽しく獲得していただきつつ、より効率的に多くの英単語を暗記してもらえるよう、さまざまな工夫をしてあります。また、付録CDの音声は、その正確な発音に高い定評があるキンバリー・フォーサイス氏（米国人女性）が吹き込んだものですので、安心して発音学習ができます。

そんな本書のねらいは、以下の3つです。

- ①自分で発音できる
- ②聞いて意味がわかる
- ③スペルを書ける

この3本柱にそって、以下に本書のひとつの活用例を示しておきます。

### ①自分で発音できる

まず、付録CDを再生して、テキストを見ながら、自分でも発音する練習を開始してください。この練習が一番重要です。アクセントやイントネーションを含めて、正確な発音が身につくまで何度でもくり返してください（必要に応じて同じ単語が何度か出てくることもあります）。

CDについての発音練習をくり返すことで、単語に親しみがわき、テキストに書かれていることに興味がわいてきます。興味がわいたときに、記憶に永久に残すチャンスです。そこで本文を読み込んでください。

逆に、テキストを読んでからCDを聞くという順番では、学習がなかなかかからないと思います。CDに録音してある、テンポよく発音された単語のリズムを、学習を進めるためにまず最初に利用してください。

このCDを聞く作業については、本書全体を通してくり返す方法と、語源ごと（＝1トラックごと）に細切れに何回も発音練習をくり返す方法がありますが、そこはお好み次第で、どちらでもかまいません。練習が進んできたら、この両方を組み合わせると、より効果的でしょう。

CDナレーターのキンバリーさんの発音を、聞こえた通りに、（カタカナ発音に加工しないで）そっくりマネしてください。アクセントもそっくりマネしてください。

CDを聞きながら、自分で発音しながら、テキストをちらちら見ながらくり返すうちに、その内容が自然に無理なく記憶されていきます。

本書にはイラストや写真がたくさん入れてありますので、ちらちら見ながら、単語の持つイメージを確認していきましょう。従来の、「覚えなければ」という「立ち止まって」覚える学習方法では、覚えてもどんどん忘れてしまいますが、野球やテニスの素振りのように、口の筋肉を動かす発音練習をくり返しながら理解が進む方法を実践すると、自転車の乗り方のようにあなたの一生の記憶に残ります。